

平成 30 年度 第 1 回 学術情報ネットワーク運営・連携本部会議 議事要旨

日時：平成 30 年 10 月 10 日（水）15:00-17:45

場所：国立情報学研究所 20F 会議室（2001 実習室 1、2）

議事：

1. 作業部会の構成について

事務局から、資料 3 に基づき、オープンサイエンス研究データ基盤作業部会の設置及び同部会の山地主査が本部委員に加わることにについて説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

なお、同部会は、オープンサイエンス研究データ基盤の構築とその運用の在り方、引いてはオープンサイエンスの推進方策について議論し、オープンサイエンス研究データ基盤の利用の促進に貢献することを目的として設置するものであることが補足された。

2. SINET5 の現状

漆谷委員から、資料 4 に基づき、以下のとおり報告があった。

- ・西日本豪雨（2018/7）、北海道胆振東部地震（2018/9）でも安定運用を継続した。国際回線の増強（米に加え欧亜の 100Gbps 化、2019/2～3）、広域データ収集基盤（モバイル機能の取込み、2018/12～）の整備を進めている。8 月に科学技術・学術審議会（学術分科会 研究環境基盤部会 学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会）による大型研究計画に関する進捗評価で「概ね順調に進捗している」と評価を得た。
- ・広域データ収集基盤の商用サービスに対する大きな相違は、モバイル網から任意のデータ処理環境（大学等環境、商用クラウド、協力事業者環境）に接続でき、3 キャリア（NTT ドコモ、au、ソフトバンク）のモバイル網を利用できる点にある。

3. 学術認証推進室状況報告

中村特任教授から、資料 5 に基づき、以下のとおり報告があった。

- ・ UPKI 電子証明書発行サービスに関し、WTCA（Web Trust for CA）による中間 CA の規制強化への対応のためサービス利用料金変更（値上げ）を検討している。利用者負担が増えないよう監査省略も含め検討しており、大学等の声を聞きながら引き続き進めたい。

4. クラウド導入・活用支援報告

合田委員から、資料 6 に基づき報告があり、以下のような質疑があった。

- ・学認クラウドゲートウェイサービスでは、学認を利用したパブリッククラウドへのシングルサインオン（SSO）に関する実証実験を行っている。なお、学認クラウドオン

デマンド構築サービスは、SSO に対応していないため、パブリッククラウドのアカウントを持つ必要がある。

- クラウド利活用実証実験での従量課金およびピークの平準化による費用低減（52～62%減）や、クラウドコールドストレージ実証実験でのデータアップロード性能向上（1.5～2倍）は、訴求性が高く、実証実験後は提供まで進められると良い。また、クラウド利活用におけるドメスティックシフトが重要に思うが、価格競争で難しい部分もあるか。
- 実証実験後もクラウドにデータを置くことが可能であり、今後、クラウドとオンプレを併用したコスト試算等を提示したい。

5. 大学間連携に基づく情報セキュリティ体制の基盤構築

高倉委員から、資料7に基づき、NII-SOCS 参加機関名を一般公開情報として扱うことの可否について以下の説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

- ・ 参加機関名はこれまで非公開としていたが、参加機関間の情報共有の妨げになっており、説明会などのイベントでの秘匿も現実的に難しい状況である。このため、参加機関に個別に連絡をし、説明会などでも方針を説明する。
- ・ 公開方法は、年報等への機関リストの掲載（前年度実績）を想定しており、マスメディア等第三者機関からの問合せには必要に応じ対応するが、積極的な開示は想定していない。
- ・ 参加機関名公開により、不参加の機関が分かるため攻撃対象になるのではとの意見もあるが、参加することが安全ではなく、セキュリティは自機関で守れるため、といった説明になると考える。

また、高倉委員から、引き続き報告があり、以下のような意見があった。

- ・ サイバーセキュリティ研究支援のためのベンチマークデータ提供は、AI のテストデータとしての利用を想定している。マルウェアを入手できる研究者は少ないため、研究が発展し、参加機関のセキュリティレベル向上につながればと期待している。
- ワークショップやグループの醸成が、極めて重要である。IoI（国際情報オリンピック）や NTCIR（NII Testbeds and Community for Information access Research）では、皆で/コミュニティで次の問題やチャレンジを決めており、そのようにデータ・セットそのものを議論するコミュニティがあると良い。
- 二次配布ルールの特典に関連して、運用しながら様子を見ながらの部分もあるが最初のうちは、研究成果が出た場合は連絡をいただく形が良いか。

6. オープンサイエンス研究データ基盤開発現状報告

事務局から、資料8に基づく報告後、データ管理基盤について、今後、オープンな実証

実験の実施を案内するので、ご協力をお願いしたい、と補足があった。また、喜連川本部長から以下のとおり補足があった。

- ・ 6月にJOSS (Japan Open Science Summit) を開催し、約 500 名に参加いただいた。研究データの管理・共有を支援するが、これを支えるのがクラウド導入・活用支援のコールドストレージになる。NII のアプリケーションレイヤは多層化しており、非 IT 系はオープンサイエンスから、情報基盤センター系はクラウドから、インプリ可能である。機関リポジトリの構築状況を見ると、独自構築分は JAIRO Cloud へのシフトが進んでいる。個々の創意工夫でなく、皆で一緒に作るのが効率的であり、オープンサイエンスデータ基盤も全く同じ構図になる。
- ・ 統合イノベーション戦略 (2018/6/15、内閣府) では「オープンサイエンスのためのデータ基盤の整備」に「文部科学省が主体となり、機関リポジトリを活用しクラウド上で共同利用できる研究データの管理・公開・検索を促進するシステムを開発し、2020 年度に運用開始」とある。次の一番大きなサービス母体となるため、積極的なご参加とご支援をお願いしたい。

また、委員より、データ管理基盤について図書館関係者にも案内があった方がよい、という意見があり、事務局より国公私立大学図書館協力委員会等の場で広報する、と説明があった。

7. 学術コンテンツ事業

大向准教授から、資料 9 に基づき、報告があった。

- ・ 学術コンテンツ (論文、機関発信、図書・雑誌、専門学術、研究の情報) の確保 (データ構築) と提供 (サービス) を行っている。今後、サービスを再統合し、また、研究分野・研究基盤・図書館を横断するコミュニティが必要である。

8. 各作業部会報告

8.1. ネットワーク作業部会

漆谷主査から、資料 10 に基づき、以下のとおり報告があった。

- ・ 国際回線増強、広域データ収集基盤、SINET サービス (ルータのバージョンアップ、テレメトリ機能、VPN 機能拡張)、SINET6 に向けた要求要件 (ノード増設、アクセス回線の低廉化等)、伝送技術 (年度内に 600G 伝送実験予定) 等について議論した。

8.2. クラウド作業部会

合田主査から、資料 11 に基づき、以下のとおり報告があった。

- ・ 学認クラウドオンデマンド構築サービス (10 月からサービス開始)、活用事例紹介 (北海道大学、慶應義塾大学、大学情報サミット)、チェックリスト Ver4.0 改訂等

について議論等した。

8.3. セキュリティ作業部会

岡部主査から、資料 12 に基づき、以下のとおり報告があった。

- ・ NII-SOCS 参加機関でクローズドに情報交換できる場の要望があり、秋の NII 学術情報基盤ミーティングに合わせ、東京と大阪会場で各 20～30 人程の機関担当者ミーティングを予定している。

8.4. 情報セキュリティポリシー推進部会

曾根主査から、資料 13 に基づき、以下のとおり報告があった。

- ・ サンプル規程集の更新と公開（統一基準改訂や、大学等における情報格付けと取扱制限のあり方等を踏まえた更新）、情報セキュリティ教材の整備（ヒカリ&つばさ情報セキュリティ三択教室への教材追加）等を進めている。

9. 学術情報基盤オープンフォーラム報告

事務局から、資料 14 に基づき、報告があった。

10. その他

特になし。

以上